



ごみを減らすためにできること

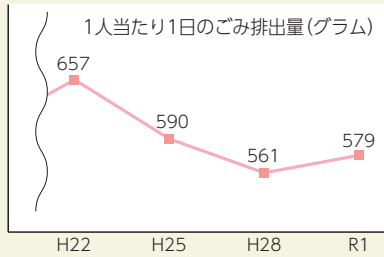
生活の中で、ごみは切り離すことのできない密接なものです。ごみを減らすことは、今の私たちの為だけでなく、未来の為の行動にもなります。今号では、分別を通じてごみを減量する取り組みについて取り上げます。

蒲郡の家庭ごみの現状

市内では、年間1万7千17トンの家庭ごみが排出されています。これはピーク時の平成20年頃に比べると12%減りましたが、1人あたりのごみの量は県内各市町村と比べると、蒲郡市は14番目ごみが多い結果です。

ごみのこれからと埋立地問題

ごみを焼却すると、二酸化炭素が発生してしまいます。つまり、ごみの量が多ければその分多くの二酸化炭素を排出し、地球温暖化が進む原因が増えることとなります。

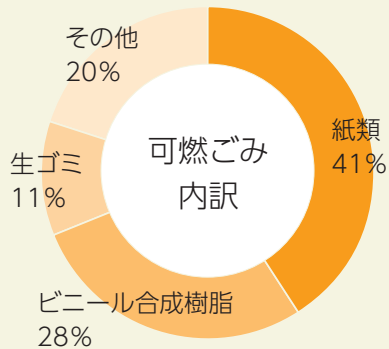


1日当たりのごみ排出量(令和元年度)

約46トン

ごみ処理にかかる費用(令和元年度)

年間 約10億700万円



サステナブルという考え方

また、ごみを焼却して残った灰は、安全に処理する必要があります。最終処分場で埋め立てられています。今の最終処分場がいっぱいになれば、また新たな最終処分場を探さなければなりません。未来のためには、今の私たちがごみを減らす必要があります。

大量生産・大量消費の時代は、大きなごみ問題や環境問題を生み出しました。環境への配慮の1歩として、今使用しているものは長く使うことや他の用途に変えるなど考えましょう。ものを新たに入手しないことはごみを生まないことにもつながります。

ごみ処理現場で働く方にインタビュー



クリーンセンター業務員
竹下 秀和

クリーンセンターには、毎日多くのごみが搬入されてきます。その中で家庭から出されるごみ袋を見ていると、ペットボトルやプラスチックの分別は比較的意識は高まっていますが、紙は分別しにくいと思う方が多いように感じます。プラスチックは資源かごみか判別が難しいのですが、一方紙はひと目で紙と分かるので実は資源化しやすいものです。いつもは丸めてポイとごみ箱の中に入れるものも、一度立ち止まって分別してみてください。分別に迷ったものがあれば私たちが答えますので、クリーンセンターにご相談ください。